

# 鶴岡市歴史的風致維持向上計画(第1期計画の総括)

## 第1期計画の主要な取組とその効果

○宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業(H26～)

まちづくり協定、整備基準を作成し、住宅や塀の外構等の修景整備により、統一感のあるまちなみの形成と景観の改善が図られた。



整備前



整備後

○鶴岡公園内堀周辺道路修景事業(H29～R4)

無電柱化、道路の美装化等により、歩行者の安全確保等の住環境の整備、鶴ヶ岡城内堀の歴史的景観の形成が図られた。



整備前

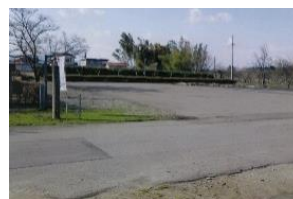


整備後

○史跡内及び周辺修景整備事業(H27～H30)

松ヶ岡開墾場内の明治時代の景観への復元を前提とした修景整備等により、来場者の利便性向上と歴史的建造物に調和した景観形成が図られた。

開墾場  
広場



史跡内  
通路



開墾士  
住宅



整備前

整備後

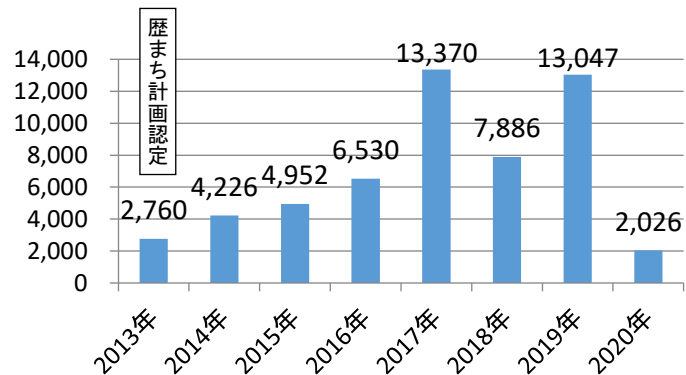
## 第1期計画の成果

○良好な景観形成と街なみ環境の整備、日本遺産の認定

鶴岡公園内の広場整備や内堀周辺道路の無電柱化と美装化、羽黒山宿坊街の街なみ修景整備の支援、松ヶ岡開墾場周辺施設の整備等により、良好な景観の形成と街なみ環境が整備され、日本遺産認定にもつながった。

○外国人宿泊客数延べ数の増加

多言語表示の総合案内板や散策休憩施設等の整備、国内外の交流や情報発信により、計画認定を受けた平成25年(2013)の外国人宿泊者数は2,760人であったが、令和元年(2019)には13,047人となり、計画認定時と比較して約4.7倍の増加となっている。



鶴岡市における外国人延べ宿泊者数の推移(人泊) ※観光庁「宿泊旅行調査」より

# 鶴岡市歴史的風致維持向上計画(第2期計画の取組方針)

## 第2期計画の背景とコンセプト

・少子高齢化や人口減少の一層の進行、自然災害の増加等の社会情勢の大きな変化、空き家・空き地の一層の増加などの新たな課題も生じており、これらの課題解決に対する施策が求められている。

・第1期計画では、「鶴岡公園とその周辺地区」、「羽黒手向地区」、「羽黒松ヶ岡地区」の3つを重点区域に位置付けて取組を実施したが、重点区域の周辺においても歴史的建造物が数多く点在しているほか、新たな文化財指定に向けた調査や人々の活動が行われており、第2期計画では、重点区域を見直し、歴史的風致の一層の維持向上を図っていく。

・第2期計画においては、重点区域の良好な住環境整備と歴史的・文化的資源の保全と活用に向けた事業を実施するほか、3つの日本遺産の認定、令和3年の羽黒松ヶ岡開墾150年、令和4年の酒井家庄内入部400年などを契機とし、歴史と魅力あるまちづくりと交流人口の拡大につながる取り組みを展開していく。



酒井家庄内入部400年

酒井家庄内入部400年  
ロゴマーク

## 第2期計画の取組方針

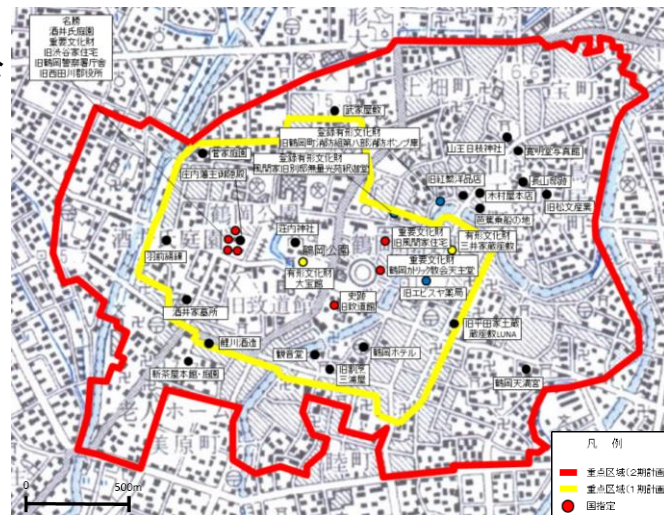
○歴史的建造物とその周辺環境の保存と活用の促進

重点区域内に現存する歴史的建造物や伝統文化等について、指定文化財の保存・活用を図るとともに、未指定の歴史的建造物の調査と状況把握、保存と活用に向けた取組を進めていく。

○重点区域見直し

これまでの「鶴岡公園とその周辺地区」を「鶴ヶ岡城下町地区」に改め、江戸時代の庄内藩主酒井家が城下町として町割した区域まで重点区域を拡大する。

「羽黒手向地区」においても羽黒山参道とスギ並木を含む区域に拡大し、歴史的風致の維持向上に取り組んでいく。



重点区域「鶴ヶ岡城下町地区」



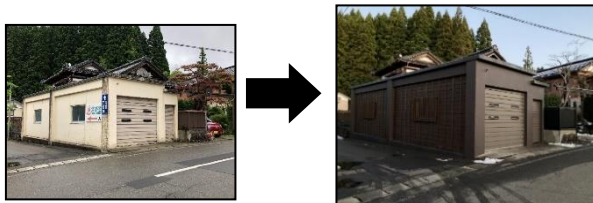
## 第2期計画の主要な取組

○良好な住環境整備と景観の保全



歴史的風致の維持向上に必要な道路の無電柱化や美装化等を行うなど、回遊性の向上と景観の保全、賑わいの創出を図る。

○歴史的建造物・街なみの修景整備



歴史的建造物の保存修理や活用、歴史的な景観形成のための建造物や街なみの修景事業を行う。

○基本計画策定・調査、啓発事業



計画策定や歴史的建造物の調査のほか、市内外への本市の歴史的風致に関する啓発事業と情報発信を行う。